
理系の人々

5757

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

理系の人々

【Nコード】

N3872BA

【作者名】

5757

【あらすじ】

工業高校機械科に通う三谷^{みたにけい}継は、夏休み前の終業式の日、銃のようなもので撃たれる。
目を覚ますとそこは牢の中。
継はなんと異星にいた。

数学と物理しか勉強ができない高校生が奮闘するSFストーリー。

第1話 夏の始まり（前書き）

初投稿です。うまく書けてるか分かりませんが、誤字脱字などがあれば教えて欲しいです。

第1話 夏の始まり

7月21日。

「お前ら夏休みでハシャぐのはいいけど、ちゃんとバレないようにしろよー？あと課題も一応やれよー？」担任の教師がこんなことを言っていた。

「それは教師としてどうかと思いまーす。」と女子生徒が笑いながら言う。

「細けえ事は気にすんな！！お前ら夏を楽しめよ！じゃあ号令！」

「起立。さようなら」

「「「さようならー！！」」」

号令が終わると共に、教室内がガヤガヤし始める。この後の予定やら夏休みの計画やらでみんな楽しそうだ。

「継ー！！この後どこ行く？あ、悟はどこがいい？」

話しかけてきたのは友人の義人だった。継と言うのは俺、三谷継の事だ。俺、悟、義人は中学からの親友である。

悟は「どこでもいい」と言うと、帰る準備を始めた。

「あ、わりい。俺今日パス」と俺が返すと、義人は

「なん……だと……！？お前まさか予定があるってのか……！？
ハッ！？彼女ができたのか！？そうなのか！？くっそリア充め！
！顔面滅びろ！！」なんてことを言ってきた。

「滅びろ」ボソツと悟も呟く。

「いやいやいや違うから！！やめろお前ら、祈祷を始めるんじゃない
え！！呪いでもかける気か！？」

こんなだからコイツらもてないんじゃない？？と正直思ってしまう。人の
こと言えないけど。

「さつさと家に帰って部屋を片付けたいだけだつて。夜中に飼い猫
が紙を散らかしまくってたみたいでさ、朝見たらひでえ惨状だった。
」と、事実を述べると、

「そうならそうと言えよ。お前を拷問にかけるところだったじゃないか。」っておい。

「サラッと怖いこと言っんじゃないやねえよ……。」呆れつつ言った。

「そういうことならまた今度な。メールすつから！！じゃあなー！
！」「またね」義人と悟が言う。

「おう。じゃあまたな。」と返し、教室を出た。

所変わって、建物が密集する通りに来ていた。
家に帰るにはここを通るのが最短ルートだが、アスファルトからの
熱でうだるような暑さだった。

「暑……………」

文句が自然と出た。涼みに店に入るにも、正直この汗の量で気が引
ける。ということで、路地裏で涼むことにした。

こういう時、日陰は日なたよりも4、5 気温が低い。逃げるよう
に路地裏に滑り込んだ。

今まで入ったことのない、やたらに入り組んだ路だった。しばらく
進むと、やたらと開けている10メートル四方くらいの場所に出た。

その時。

上から叩きつけるような風が吹いた。

「っ！？」 思わず目を閉じる。

吹き下ろしてくる風の中、なんとか目を開ける。上をみるとそこには、なにか透明なものが浮かんでいた。

はつきりとは見えないが、粉塵や砂ぼこりでそこに「何か」があるというのは分かった。

風は立っていられないほどに強くなり、再び目を閉じる。

機械音と共に風が弱くなった。立ち上がり目を開けると、そこには信じられない物があった。

銀色の 円盤。

一般的に「UFO」と呼ばれるようなそれが目の前の空間にあった。

プシュ、という音と共に、円盤の側面が開いた。

宇宙人らしき人影がゆっくりと出てくる。

（うっお！？宇宙人襲来！？地球侵略！？人類滅亡！？） 継の頭
の中をあらゆる不吉な考えが巡る。

おずおずと宇宙人らしき人影の顔を見て、継は思った。

（ あ。……………かわいい……………！！ ）

茶髪でショートカットの美少女がそこには居た。

少女が伸びをして、嬉しそうに呟いた。

「 やった。…………… やつと着いたあ…………… ！！」

言葉を発すると同時に、腰の後ろ付近で何かが揺れる。

継はそれを見て思わず言った。

「…………… 尻尾おおおおお！！！！………？……？」

少女の尻尾は左右にゆっくりと動いていた。

声に驚いた少女が継の方を見る。

「ああああああっ！！見つかった！！！！？？」

叫ぶ少女が何かを取り出した。

（はっ！？なんだあれ、銃か！？）

銃のようなものを少女が両手で支え、継に向けている。

やめろ、
と言つ間もなく、
継の身体は光に包まれ、
意識を失つた。

第1話 夏の始まり（後書き）

今後不定期気味に投稿していく予定です。

第2話 牢の中（前書き）

続きの投稿方法がいまいち分かりません……orz

第2話 牢の中

目を覚ますと、周りを柵で囲まれていた。

というか。

牢の中、だった。

「うあああああああっ!?!」飛び起きながら叫んだ。

周りに人が居るらしく、ザワザワし始める。

…なんか…動物園の虎みたいな気分になってきた……。

ふと外に目をやり、集まる人々を見る。

… 先ほどの少女と同様、皆さん尻尾が生えてらっしゃる…それと…
… 耳も。

もう何がなんだか……意味が分からないよ!!

混乱しているところに低い声が響いた。

「……起きたか……地球人……。」

声^{こゑ}がする方を見ると、威^い厳^{げん}をオーラのごとく放^{はな}つおじいさんがいる。

足元^{あしもと}から腹……顔へと視線^{しせん}を移す……。

「ぶっふぉあ!？」 思わず嘔き出してしまった。

その理由は…彼の頭の上…。

ウサ耳 だった。

「…笑うな…!!」 険のある声で怒鳴られる。

「す…すいません…。 今のは…不意打ちすぎっ…!!」 必死に笑いを堪えながら言う。

「…突然で悪いが、お前には死刑になってもらう。」

「……………は！！？」

何言ってんだろっ、この人。

「え？え！？全然話が見えないんですけど！？ていうかまずここどこ！？なんで俺牢に入れられてんの！？死刑って何！？」軽いパニック状態で矢継ぎ早に質問する。

「……うるさい奴だ……まあいい。まずは一つ目の質問に答えてやる
う。」

一呼吸おいて、口を開く。

「ここは地球ではない。銀河系の惑星、アグライア。あ、ちなみに
私はこの星の最高議長のネルだ。」

「え……地球じゃ……ないの……！？……じゃあ俺なんでここに居るの？」

「お前は……獣耳が無い少女に会ったか……？」

ハッとする。「あ…はい…会いました。尻尾はありましたね」

はあ、とネルが溜め息をつく。

「その少女が原因だ。…恐らく、銃のような物で撃たれただろう？
」

「あ…はい、そうです。…でも…俺がここに居ると何の関係が？」
疑問に思ったことを投げかける。

「…それは物質転送装置なのだ。あれだ、俗に言う《ワープ》のた
めの道具だ。」

「えー！？ワープ！？」「なんですか。某戦艦のあれですか。」

「…動揺しておるな。まあいい、この辺で、死刑の話に戻るか。」

.....あ.....死刑.....

第2話 牢の中（後書き）

死刑（ミサ風に）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3872ba/>

理系の人々

2012年1月10日22時52分発行